

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2025年度 第4号

事務局：〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

大阪教育大学 多文化教育系 篠崎文哉研究室内

E-mail: kelesoffice@gmail.com 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2026年3月31日発行



巻頭言

2025 年度の学会活動

関西英語教育学会副会長 今井 裕之（関西大学）

今年度の関西英語教育学会の研究活動を振り返ってみましょう。第31回研究大会は6月7、8日の2日間にわたって、同志社大学今出川校地（烏丸キャンパス）で開催されました。両日にわたって、講演、ワークショップ、研究発表など多彩な研究活動の発表と交流の時間となりました。学会後の和やかで賑やかな懇親会での交流も含めて、大変有意義な学術交流の時間になりました。参集型での開催は、会場校や幹事の先生がたのご負担が大きくマイナス面があることは否めませんが、人間と言語と教育文化を研究する学会にふさわしいコミュニケーション豊かな会になりました。ご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

今年度のKELESセミナーもオンライン形式2回、参集形式1回で行いました。10月5日に開催された第63回「理論と実践の往還から、教育研究の意義と具体的実践を探る」では、佐藤臨太郎先生（奈良教育大学）泉谷忠至先生（近畿大学附属高等学校・中学校）が、第64回セミナー「英語で育てる心と視野—子どもたちのグローバルマインドと人間力を育む授業—」では、中村直紀先生（賢明学院小学校）、柳田 綾先生（桜花学園大学）、鈴木駿吾先生（名古屋大学）が、授業実践者としての視座と研究者としての視座を共存させながら、豊かな教育観、授業実践を語ってくださいました。参加者のインボルブメント、インタラクションを得やすい参集型の方が望ましかったかもしれませんが、オンライン形式にも関わらず、参加者の皆さんの声を最大限活かしていただけたように思います。

第65回「確かな学力伸長のための中高接続」は、関西大学梅田キャンパスで行われ、増見 敦先生

（神戸大学附属中等教育学会）からは、探究的学びを通して小中高を通じて「生徒自身の英語」を育てる実践研究を、臼倉美里先生（東京学芸大学）からは、中高の教科書の分析結果、生徒たちの学力調査の結果などを踏まえて大変示唆に富む研究をご講演いただきました。参加者の皆さんとの意見交流も活発で、この日も会場全体が一体感あふれるKELESらしい会となりました。

年が明けて2026年2月8日には、第29回卒論・修論研究発表セミナー（次は第30回記念大会！）が、大阪教育大学天王寺キャンパスで、参集型で開催されました。昨年はオンライン形式でしたが、参集型にしたことで、発表者同士の交流の機会を設けられたのが、なによりの収穫だったと思います。この日のつながりが、将来の学界、教育界での活動で活かされたら、卒修セミナーをこそ参集で実施した意義があったと思います。恒例のスペシャル・トークは、今回は、廣森友人先生（明治大学）がお忙しい中駆けつけてくださいました。学習者心理研究の過去と現在（最先端）を日本と国外の研究動向を交えてお話いただき、さすが廣森先生！と皆が唸る学び多いご講演をいただきました。

2025年度も実り多い研究行事を開催することができましたが、さて来年度はどうなるのでしょうか。2026年度は通常の学会運営に加えて、2027年8月にJASELEの研究大会を関西で開催する準備の年になります。横川博一会長（実行委員長）のもと、JASELEの関西開催を、KELESや関西地区の英語教育の発展にもつながるようなアイデアや工夫を凝らして面白い準備の一年にしましょう！

報告 第 29 回卒論・修論研究発表セミナー

2026 年 2 月 8 日（日） 大阪教育大学 天王寺キャンパス

今年度最後のセミナーを大阪教育大学（天王寺キャンパス）で開催しました。卒業論文・修士論文を完成させた学生さんと、将来の英語教育をともに考える語らいの場です。研究発表は卒業論文 15 本、修士論文 2 本の申し込みがありました。発表者への大変貴重なご助言をいただきましたコメンテーターの鳴海智之先生（兵庫教育大学）、谷野圭亮先生（大阪公立大学工業高等専門学校）、泉恵美子先生（関西学院大学）、篠崎文哉先生（大阪教育大学）、山形悟史先生（岡山大学）には、心から御礼申し上げます。また、スペシャル・トークの講師に廣森友人先生（明治大学）をお迎えして、「英語学習・指導を支える三本柱：モチベーション、エンゲージメント、ウェルビーイング」というタイトルで、ご講演いただきました。本年度を締めくくりにふさわしいご発表・ご講演、そしてお申し込み・ご参加いただきました 62 名の皆様に御礼申し上げます。

<スペシャル・トーク>

「英語学習・指導を支える三本柱：モチベーション、エンゲージメント、ウェルビーイング」
講師：廣森友人先生（明治大学）

本講演では、英語学習と指導を支える枠組みとして「モチベーション」「エンゲージメント」「ウェルビーイング」の三本柱が提示され、それぞれの役割と重要性、さらに教育実践への示唆が整理された内容であった。講演は、L2 モチベーション研究の変遷を起点に、モチベーション研究の課題、エンゲージメント研究の特徴、そして教師のウェルビーイングへと、理論と実践を行き来しながら構成されていた。

モチベーションは学習者の「なぜ行動するのか」を説明する概念であるのに対し、エンゲージメントは「どの程度その行動に関与しているのか」を捉える概念である。また、認知的エンゲージメント・感情的エンゲージメント・行動的エンゲージメント・社会的エンゲージメントという 4 つの側面があり、学習者の学びへの関与を多面的に捉える枠組みを提供する。そして、学習者を一時的に「やる気にさせ

る」ことにとどまらず、学習への関与をいかに持続させるかが、教育実践における重要な課題となる。その持続的な関与を支える要因の一つとして、教師の存在がある。とりわけ、教師自身のウェルビーイングが低下した場合、それが学習環境や学習者の関与の在り方に影響を及ぼす可能性があることが指摘された。

ウェルビーイングの枠組みとしては、Seligman (2011, 2018) の PERMA モデルが紹介され、Positive Emotion（ポジティブ感情）、Engagement（エンゲージメント）、Relationship（関係性）、Meaning（意味・意義）、Accomplishment（達成）がバランスよく満たされることの重要性が説明された。英語教師はストレスを抱えやすい職業とされる一方で、実証的には英語教師のウェルビーイングは比較的高いことが示され、自身の行動を周囲の評価ではなく、自分がどのように意味づけるかがウェルビーイング向上の鍵になるという先生の言葉は、特に印象に残った。

廣森先生は、冒頭の自己紹介の段階で、瞬時に聴衆との関係性の土台を築かれた。ご著書と同様、理論をかみ砕いた明快な説明に加え、ご自身の教育実践や随所に織り交ぜられたユーモアによって、会場の関心は自然と引き込まれていった。そして、その高まりは一過性のものではなく、講演の最後まで持続していた。エンゲージメントが高まるプロセスすなわち「土台づくり→喚起→維持」を先生ご自身が講演を通して体現されていたように感じられた。

講演の最後には、これから教員を目指す学部生・大学院生に向けて、「研究は人生そのもの。うまくいかないときは気持ちを切り替え、またそこから頑張っていけばよい」という温かいメッセージが送られた。そして、研究や教育に向き合い続けるためには、モチベーション、エンゲージメント、ウェルビーイングの三本柱が重要であることが改めて強調された。本講演は、研究者・教育者としてのあり方を改めて考えさせる、示唆に富んだスペシャルトークであった。

報告者：笠巻 知子（京都外国語大学）

＜発表者体験記＞

「足場かけについての中学校英語教師の 授業構成観の質的研究」

山田 陽夏（京都教育大学）

今回、初めて関西英語教育学会に参加し、自身の卒論を発表させて頂く機会をもらった。このような機会は本当に貴重で、自分が1年半という時間をかけて行ってきた卒業論文を専門的に研究されている方々の視点や正しい知識を元に見ていただける唯一の機会であった。

今回私は、scaffolding をテーマにして教師の授業構成観の質的研究を行ったが、私自身この研究を通してさらに身についた知識や技能もあれば、まだまだ理解しきれていない事柄も多くあると実感している。多くの先生方との交流から新たな知識を得て自分の学びに活かしたいと思っていた。当日は、自分自身の発表にすごく緊張しており、20分という時間の中で自分のやってきた事をどれだけ正確に理論的背景と繋げながら伝えるべきか頭を悩ませた。他の大学の生徒の発表も聞くことのできる珍しい貴重な時間もあり、自身の学びや新しい視点を蓄えられた。

発表では、私にはなかった考え方や先生方からの疑問、私の考えなどに対する質問が多く飛んできて、少し難しい質問もあったが、また1つ自分の研究の更なる進歩や、実際に教員として教壇に経つ際意識の変容などに繋がった。この学会に参加したことで、英語教育へのさらなる関心と学びへの意欲が高まったと感じている。

「小学校高学年と中学1年生の英語教科書分析 —小中接続に求められる文法の指導とは—」

奥 夏生（関西学院大学）

はじめに、このような貴重な場で自身の研究を発表し、先生方からコメントや質問をいただき、研究により深く向き合う機会をいただけたことに心より感謝申し上げます。

本研究で私は、英語教育の小中接続の鍵を握っている中学1年生での文法事項の指導に着目した。小学校外国語科と中学校英語科の検定教科書を分析対象とし、各文を文の種類、文構造、文法事項の3観点から分析して、小学校高学年と中学1年生で含まれる文法項目の共通点や相違点を明らかにした。そして結果を踏まえ、小中接続を意識した中学1年生での文法指導のポイントについて考察した。

発表後の質疑応答の時間では、意外であるとされた分析結果に関して、さらに詳しい数値や私自身の見解についての質問や、実際に中学1年生の授業で、文法指導をどのように工夫すれば英語にネガティブな思いを持つ生徒のやる気を引き出すことができるかなどという質問をしていただいた。先生方からの質問やコメントを通して、研究結果からわかることが、小学校高学年と中学1年生のギャップを埋めることにどのように効果的であるのかを、自身の考察を超えて考えることができた。

本研究及びセミナーで得られたことを、来年度からの小中接続を考えた中学校英語指導に活かしたい。

「新任期英語教員の危機と再生」

藤猪 祐華（関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科）

2月8日に開催された卒論・修論セミナーに向けて、「新任期中学校教員の危機と再生：離職防止と教職への意欲回復に向けた支援の在り方」という題目で研究をまとめました。

本研究では、若手教員の高い離職率や教育現場の疲弊という深刻な現状に着目し、新任教員が直面する「危機」の実態と、そこからいかにして「再生」へと向かうことができるのか、そのプロセスを明らかにすることを目的として調査を行いました。

調査の結果、孤立感や無力感といった「危機」を乗り越えるためには、個人のレジリエンスのみならず、職場における心理的安全性の確保や、テクノロジー活用等による業務負担の軽減、そして「対話」を通じた組織的な支援が不可欠であることが示唆されました。

本研究を通じて、教育現場が抱える切実な課題を多角的に捉え、その解決に向けた支援の在り方について改めて考える貴重な機会となりました。

私は春からAIコンサルタントとして教育現場を含む社会課題の解決に携わることになりますが、本研究で得た知見を活かし、テクノロジーの力で現場のゆとりを生み出し、人が本来の役割に集中できる環境を創造するプロフェッショナルになりたいという意欲を高めることができました。

最後になりますが、このような機会をいただいた事務局の皆様、ならびにご指導いただいた先生方に深く感謝申し上げます。

学会事務局からのお知らせ

関西英語教育学会 第32回研究大会のお知らせ

日 程：2026年6月13日（土）・14日（日）

会 場：大阪教育大学 天王寺キャンパス
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町 4-88

アクセス：大阪教育大学ウェブサイト参照
https://osaka-kyoiku.ac.jp/campus_map.html#tennoji

参加費：

会員 無料

非会員（一般） 2,000 円

非会員（学部学生・大学院生） 1,000 円

＊学生証をご提示ください。提示がない場合には一般参加費となります。

プログラム：講演・ワークショップなどを鋭意企画中です。プログラム等詳細が決まり次第、随時特設ウェブサイト等でお知らせいたします。

発表募集／Call for Presentation：

研究発表、公募ワークショップ、公募フォーラムを募集します。発表申込締切は5月10日（日）です。詳細は別途送信するご案内および特設ウェブサイトをご覧ください。

研究大会特設ウェブサイト：

<https://sites.google.com/view/keles-32nd-annual-conference/>



ニューズレターは、KELES のウェブサイト（下記リンク）にも掲載しております。

<http://www.keles.jp/activity/newsletter/>

全国英語教育学会 第51回岡山研究大会

日 程：2026年8月22日（土）・23日（日）

会 場：岡山大学

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/index.html>

▶詳しいご案内は、追って情報発信いたします。

学会費納入のお願い

新年度を迎えるにあたり、2026年度学会費納入を6月開催の研究大会までお願いいたします。詳しくは、別添のご案内をご覧ください。

お問い合わせについて

・学会費、入・退会

会計担当 三木浩平（近畿大学）

keles.treasurer@gmail.com

・学会誌『英語教育研究』（SELT）

学会誌担当 佐古孝義（明星大学）

sakotakayoshi@gmail.com

・研究大会、各種セミナー、その他学会全般 事務局 お問い合わせフォーム

◆会員情報の更新は下記フォームで！

Newsletter および学会情報は、KELES ウェブサイトへの掲載と会員の皆様への一斉メール配信で行っております。

みなさまに確実に情報をお届けできるよう、メールアドレスの更新・登録をお願いします。

会員情報（会員種別・住所・所属・電話番号・メールアドレスなど）の変更・更新は、下記フォームにてお願いいたします。

<https://forms.gle/deRoVkjPDa9iMKkr6>